

## 父が埴輪に

風ばかりほめられている夏座敷

父の日の父が埴輪になっている

父の日の見果てぬ夢をよく洗う

定年や踊り上手になれぬまま

老いらくといえど初恋 遠花火

ほうたるがときどき胸に哭きにくる

放蕩の少し匂いて生身魂

みずき 啓

梅雨入りや妻と程よき距離にあり

本当のことは言えずに辣蕪剥く

花うつぎ昭和の風が吹いてくる